

平成30年度第7回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成30年11月27日（火） 午前14時20分から16時15分まで
- 場 所： 京北病院2階大会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介
理 事 森 一樹, 黒田 啓史, 半場 江利子, 松本 重雄, 位高 光司, 山本 壯太, 木村 晴恵
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
事務局 阿部経営企画局次長, 長谷川担当部長, 榎木担当副部長, 濱口経営企画課長, 石田総務担当課長, 桑原管理PFI担当課長
京北病院 由良医療政策監, 高倉院長, 正木副院長, 下山看護部長, 北川事務長, 大西訪問看護係長

1 開会

2 議事

(1) 月次収支（9月まで）

資料1に基づき、阿部経営企画局次長から説明

- 9月の収益が少ない。また災害による修繕費は増加しているのか。
→ 9月は営業日数が少ないためである。収益は、営業日割では悪くない。災害のため、前年より修繕費は増加した。
- 京北の薬品費が増加している。
→ インフルエンザワクチン調達のため増加した。
- 資金計画はどうなっているか。
→ 現在、第3期中期計画策定時においても、資金計画を策定している。

(2) 経営状況月次（10月まで）報告

資料2に基づき、阿部経営企画局次長から説明

- 10月は手術をはじめ高度な医療の提供や、平均在院日数が短縮し、効率的に稼働ができたので診療報酬単価が増加した。外来から入院医療へシフトしていきたい。
- 京北の稼働率の低迷が続いている。何か原因はあるのか。
→ 京北では65歳以上の人口は増えているが、当院への入院患者は前年と比較して減少している。入院医療や在宅医療など患者の意向を踏まえて対応していきたい。
- 京北地域で入院を必要とされている患者を京北で診ることができているのか。
→ 実態はつかめていないが、京北地域の患者は京北病院で診療していきたい。
- 老健施設について、京都市域と比較しても稼働率が高い。何か工夫されているのか。
→ MSWの介入が大きい。効率的な運用を行っている。

(3) 年度計画実績報告（上半期）

資料3に基づき、阿部経営企画局次長から説明

- 救急搬送受入患者数の目標値が高いと思う。
→ 第3期中期目標では、救急車搬送件数を外部環境・内部環境を踏まえて考慮していく。
→ 外部環境では、市内の救急搬送件数は伸びているが、大学病院等も救急を取り始めており、厳しい環境にある。内部環境では、脳外科及び整形分野の受入れが課題であり、対策を考えていく。

- 救急医療管理加算 1 を数値目標に加えられた理由を教えてください。
- 高度な急性期病院として、重症疾患の患者を受け入れていく方針であるので、今年度数値目標に定めた。

(4) 京北病院における人生最終段階の医療について

資料 4 に基づき、正木副院長・大西訪問看護係長から説明

- 京北病院の看取りの支援について、もっとアナウンスしていただきたい。
- 発表を聞かせていただいて、京北病院の役割がしっかりとわかった。
- 看護師の負担は大きいようだ。
 - 8割以上、在宅で治療を要する患者に関わっていただいている。看護師の負担は大きく、精神的なプレッシャーもある。チーム医療で実施していくべきである。人生最終段階の医療に向けて具体的な記録をとることが必要である。
- 患者、家族、多職種を交えた医療職で入院や在宅での患者の看取りについて考えていく必要がある。
- このような京北地域の医療を守っていくためにも、機構全体で健全な経営を理事者を筆頭に考えていかないといけない。

3 閉会